

大学院特別講義

(医歯学先端研究特論)(生命理工学先端研究特論)
(医歯理工学先端研究特論)

下記により大学院特別講義を行いますので、多数ご来聴下さい。

記

1. 講 師 大阪歯科大学 歯学部歯科保存学講座 吉川一志 准教授
2. 演 題 「知覚過敏症治療のための歯の硬組織再生に向けたアパタイトシートの開発」
3. 日 時 平成27年1月28日(水) 18時～20時
4. 場 所 2号館2階 口腔保健工学専攻第4講義室
5. 内 容

知覚過敏症の発現頻度は象牙質露出症例の20%程度といわれており、多くが歯の表面を覆うエナメル質の欠損や歯周病により歯肉が退縮して露出した象牙質の表面への外部からのさまざまな刺激に象牙細管の中の髄液が反応し、それを痛みとして感じる事が原因と考えられている。現在の治療法は初期治療による再石灰化の促進を初めとして、象牙質表面での治療法が主となっている。再石灰化を利用してエナメル質を修復する方法は現在のところ簡単に短時間でエナメル質を修復・保存できる方法は見当たらず、また有機材料であるコンポジットレジンや歯質接着システムを用いてエナメル質を修復・保存することは一般に行われているが、可能であるならば象牙質表面に無機質であるエナメル質を再生して修復することが望ましい。しかし歯のエナメル質を形成するエナメル芽細胞は、歯が萌出するまでに消失していることから、エナメル質を再生することは困難である。

我々は近畿大学生物理工学部の本津教授の研究であるレーザーアブレーション法により、溶解性基板上にハイドロキシアパタイト(HAp)薄膜を成膜後、溶剤にて基板を除去し薄膜をシート単体として回収するという技術に着目し、今回この技術を用いて生成したHApシートを直接象牙質表面に貼付し、再石灰化を促すことで象牙質表面にエナメル質の代わりとなる硬組織の再生を試みたので報告する。

連絡先 中禮(ちゅうれい) (スポーツ医歯学分野 内線5867)